

文化高知

2001年9月 NO.103



「きのこのスケッチより」 戸梶郁子

〈もくじ〉

台風へ備えて	尾上幸喜	2
高知あれこれ	金谷 信	3
花は散った	中山俊子	4~5
IT革命の「光」と「影」(下)	鈴木堯士	6~7
元鬼軍曹の回想録	山本志雄	8~9
万葉文芸学(四)	浜田清次	10~11
空間に寄せる想い	北村真実	12
おんな三題 その二	真田順子	13
風俗歳時記・風伯		14~15

台風に備えて

尾上 幸喜

1 はじめに

北には四国山地が高くそびえ、南には暖かい黒潮の流れる太平洋が広がっている高知県は、その地形と地理的位置により毎年のように台風の影響をまともに受けています。

台風は過去幾多の大きな災害を高知県にもたらしています。今後の台風にも適切に対処するには、台風の性質や特徴、予報の精度をよく理解しておくことが大切となります。

2 台風とは

熱帯の海洋上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼び、このうち北西太平洋で発達して中心付近の最大風速がおよそ一七m/s以上になったものを「台風」と呼びます。

台風は暖かい海面から蒸発した水蒸気が雲粒になる（積乱雲が発達する）とき放出される熱をエネルギーとして発達します。平均的な台風の

持つエネルギーは、日本全国の発電所が一時間、フル操業したときの一〇〇〇倍以上に相当する巨大なものといわれています。

巨大な空気の渦巻きである台風は、暖かく湿った空気が大量に集まり（強い風が吹く）、積乱雲が次々に発達（大雨が降る）しなければエネルギーが補給されず衰弱してしまいます。また、中心付近での気圧の低下と強風は高潮と高波の原因となります。したがって、台風は常に強風と大雨、高潮、高波を伴っているといえます。

台風は上空の風に流されて動き、また地球の自転の影響で北へ向かう性質を持っています。そのため、上空で通常東風（偏東風）が吹いている低緯度では西へ移動しながら北上し、上空で強い西風（偏西風）が吹いている中・高緯度に来ると速い速

度で北東に進みます。

3 台風の予報

これまで台風の予報といえば、進路予報のことでした。その進路予報の重要性は現在も未来も変わりはありません。しかし、進路予報がある程度の成果を収めてくると、次にはその台風が発達したり衰弱したりする強度（中心付近の気圧と最大風速）の予報が問題になってきます。

〈台風の進路予報〉

台風の進路予報は、数値予報という物理方程式に基づいて大型計算機で計算する方法で実施されています。台風の中心位置の予報については実際とのずれた距離を年平均（誤差）してみると、平成十二年の誤差は24時間（二日先）予報で一五三km、48時間（二日先）予報で二八二km、72時間（三日先）予報で四〇四kmとなっています。

この誤差を、48時間予報が開始された昭和六十三年当時（十三年前）と比較してみると、24時間予報で約五〇km、48時間予報で約一二〇km短縮され、平成九年から開始された72時間予報は昭和六十三年当時の48時間予報の精度と同じレベルに向上してきています。

〈台風の強度予報〉

平成十三年の五月まで、気象庁で

は、進路予報については72時間先まで発表しているのに対し、強度予報は24時間先までしか発表していません。それは、これまで強度予報については数値予報の成績がまだ十分とはいえない状態であったからです。

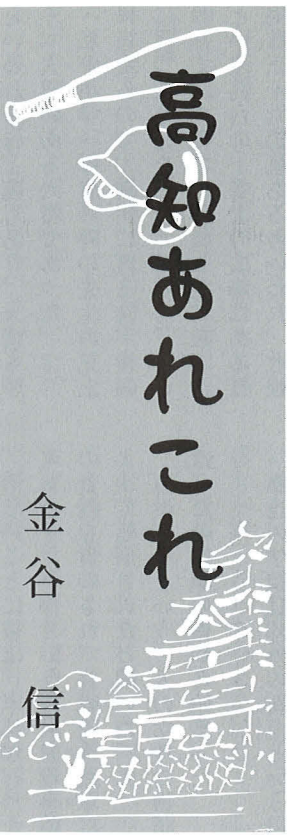
ところが、今年三月に導入された大型計算機では、強度予報も48時間先まで、これまでの24時間予報と変わらない精度で予報できるようになりました。このため、平成十三年六月一日から48時間先までの強度予報の発表を開始しました。

4 おわりに

これから台風シーズンの本番を迎えます。災害の発生を防ぐとともに、たとえ発生しても被害を最小限に食い止めるため、台風の予報精度を十分理解したうえで、台風情報を有効に利用して欲しいものです。

ただし、台風の進路と強度の予報精度の評価は平均的なものであって、予報の難しいケースも考えられます。また、予報に反して進路が急に変わったり、急激に発達するようなケースもあります。気象庁の発表する台風情報を利用するに当たっては、常に最新の情報を利用していただきますようお願いいたします。

（おのうえこうき／高知地方気象台長）



高知を離れてずい分になる。親父がNHKにいた関係から、小学校三年生で転入、土佐中の三年生の時に山形県鶴岡に転校するまで約六年間お世話になった。その間集団疎開もあって、京都、大阪、高知と小学校は都合六回転校した。

大阪に本社のある東洋紡に就職し、その後三十数年たつてエレベーター・ホールで土佐中時代の同級生に発見され、今は土佐高の関西同期会に入ってもらっている。私にとって全く偶然に高知が舞い戻って来たわけである。

四年前、関西経済同友会の講演会の講師として橋本知事が見えられた。常任幹事をしている関係から少人数の夜の会食にも出席しているいろいろと高知のお話をうかがった。講演のテーマは「土佐発『情報生活維新』」。情報化によって県民の生活を改革し、また新しい文化を創造していこうと

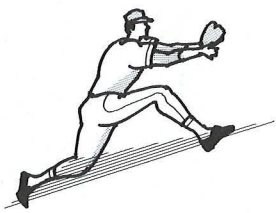
いうもので、情報化をキー・コンセプトとして地域復興をはかろうとする考え方を実に意欲的に述べられ、地方分権へのほとばしる情熱に打たれ感銘を受けた。その後この計画は、知事のリーダーシップの下ずい分進展しているものと推察している。

ちょうど同じ時期にこれと符節した形で、地域復興のコアを担うという明確なコンセプトの下、産学官の連繋による高知工科大学が創設された。現在の工科系の大学教育が果たして時代の要請にマッチしているのかそのあり方が問われているが、高知工科大学は新しいビジネスの創造にも対応できる創造性をもった人材の育成を眼目としていると聞いている。今後のあるべき大学の先駆的なものとして大いに期待したい。

この大学の学長に岡村甫氏が就任されたというところで私にとってより身近かに感じられる存在となった。

私と彼は東大の野球部で四年、一年の関係で、何と彼は野球部の合宿所から入学試験を受けた。土佐高からすごい投手が受験するということで、後輩ということもあって大いに期待したが、当時最難関といわれた理科一類に見事現役で合格した。その後東大教授、工学部長となり、土木学会の重鎮である。

彼が活躍していた当時の東京六大学はまさに黄金時代で、私の同期に長嶋、杉浦、本屋敷の立教三羽鳥、二年上に藤田、秋山、木村（保）とプロ野球でもスターとなった名選手が目白押し。ハイレベルの他大学の強豪を相手に彼は通算17勝の勝ち星



をあげた。それも一年生の時はほとんど登板の機会がなかったもので、二年生からの三年間である。17勝は東大の歴代投手中最高の成績である。私も高知で覚えた野球がずっと続いて、東洋紡でも四年間ノン・プロの

野球をやったが、たまたま四日市の工場にいた時東大野球部が遠征して来て、岡村投手と対戦した。私がヒットを一本打って、「岡村は六大学でずい分勝っているというが、大したことないじゃないか」と言うと、東大の後輩に「先輩が恥をかかないよう、打ち良い球を投げたんですよ」と言われ、ギャフンとした記憶がある。

私は昨年東洋紡の専務取締役を退任し現職についているが、東洋紡も高知には大変お世話になっている。高知県は現在海洋深層水に大変力を入れておられるが、室戸の研究所に当社の海水淡化装置を使っていた。その後室戸から採れる海洋深層水を使って、ミネラル・ウォーターを造る事業に当社の装置を使っていたらいており、非常に好評である。

東洋紡のVリーグの女子バレーボールの責任者をしていた関係から、数年前高知市で試合があつて訪問した。久方ぶりに高知城に行き、日曜朝市にも寄った。市内を走っている路面電車もなつかしく、街が今も昔の面影を残していることに感激した。また近々訪ねてみたいと思つている。かなやまこと／東洋紡不動産株

（株式会社取締役社長）

花は散った



白浜京子と私との出会いは、昭和十五年、当時の満州国の撫順市にある日本人の小学校に私が赴任した時だった。

撫順は露天掘りで世界一といわれた炭坑の街で、東西に広大な露天掘りがあり、ほかにもたくさん立坑があった。当時の炭坑長は高知市出身の久保氏で、市長の名は知らずとも、炭坑長の名を知らぬ人はない、といわれるほど腕もあり、人情も厚く、人望のある人物であった。

私が小学一年生の時の先生の兄上に当たるので、満州に渡る時、撫順に行ったら兄を訪ねてごらん、といわれていたのでお訪ねした。永安台という高台の一番上の広場にある社宅は三十六部屋あるといわれ、敗戦

後ソ連軍の司令部として接収されたほどの広大な建物であった。

私は高知を出る時にかつお節の一箱を手土産にと思つて持つて出たが、そのお屋敷の玄関前で怖気づいてしまいそのまま帰ってきた。撫順で年に一度行われていた高知県人会でもはるか遠くから拜むようにして見るだけで、とうとうご挨拶の機会を失ってしまった。

惜しいことに彼は、軍部が行ったヤンパイブ事件という住民虐殺事件の責任を負わされ、終戦後八路軍によって処刑されたと聞いた。

白浜京子という一人の女性の物語は、この撫順の街から始まった。

私達の学校は郊外の新屯しんとんという風

光明媚な行楽地にあり、新屯小学校という十二学級の日本人子弟の学校であった。私は六年生の家庭科と体育ダンスを受け持つ専科の教師を任命された。

最初に出席をとった時、白浜京子という名を見て、小説に出てきそうな名前だと思ひ、その名のとおり瞳の美しい色白の、楚楚とした中に女の魅力を秘めた姿が白い花を連想させる、印象に残った子であった。

終戦の年の三月、女学校を出て、町の会社に勤め始めたばかりであったが、日本人の経営する会社、商店は閉鎖されたので、満人の喫茶店で働いていた。京子は満鉄の独身寮の寮母の娘で、兄は満鉄の社員であった。

ソ連軍が引き揚げた後で、八路軍と国府軍の勢力争いがあり、市街を中心に昼夜戦闘が続いていたが、国府軍に追われて、八路軍が撤退し、ようやく銃声が聞こえなくなった。京子の働いている店にも、国府軍の兵士の出入りする姿が見られるようになった。

撫順方面の最高指揮官である齊大佐も時々コーヒーを飲みに来る。齊大佐は日本の陸軍士官学校出の青年将校で当時二十八歳、日本語も流暢、白哲長身の青年であった。

ある日曜日、齊さんは京子の家に遊びに来た。その頃は激しい市街戦は終わっていたが、京子の家のある新屯付近には、まだ八路軍が出没するといわれ、危険な状態だったので、齊さんは部下二人を連れ、腰の拳銃は安全装置をはずしていたそうである。

京子の家のドアを後ろ手で閉めた途端、腰の拳銃が暴発し、大腿部を貫通したという。彼はすぐに満鉄病院に運ばれ、京子は三日三晩、不眠不休で彼の看護に当たった。生来のやさしい性格に加え、戦時中習得した救急法も心得ており、誠心誠意の至れり尽くせりの看護に、齊さんはひどく感激した。美しい容姿の中に秘めた、やさしさと強さに日本女性

の理想の像を見たであろう。

退院後、京子の兄のところへ結婚の申し込みをした。京子の兄は、「国破れたりとはいえ、敵国の将に妹は渡さん」と反対したが、京子の六年生時分の担任教師であったT先生が中立ち、何回か話し合った結果、兄にも齊さんの人柄がわかり、快諾してくれた。



杏の花の咲く頃に齊さんと京子の結婚式が挙げられることになった。毎日、地獄絵を見るような、暗い出来事ばかりで生きる望みも失いがちな私達に、パッと光が射し込んだような明るい話題であった。

撫順市の実業家の邸宅を接収した齊さんの宿舎で、盛大な式が挙げられた。出席したT先生の話によると、「齊家の一族郎党はじめ、国民軍の幹部将校、行政職の役人等大勢出席し、盛大な祝宴であった。京子の花嫁ぶりも華麗で、しかも堂々として賛嘆の声が上がっていた。将来中国の社交界の華となり、日中友好の架

け橋として活躍してくれるだろう」。誰もが京子のしあわせを信じて、心から祝福したことであった。

七月になり待ちに待った内地への引き揚げが始まった。撫順第三十六大隊というのが私達の所属する部隊で、昭和二十一年七月十六日、許されたただ一つのリュックサックを背負って、撫順駅に集結した。

その時齊大佐、京子夫妻が見送りに来てくれた。軍装の大佐に寄り添った京子は、淡いサテンの中国服に身を包み、白い象牙の扇子をかざして陽射しをよけている姿が、まるで映画の一シーンを見るようであった。集まった人達はリュックサック一つを全財産として、住み慣れた地を追われて行く我が身の惨めさも忘れて、祝福と羨望をこめてこのカップルに拍手を送った。

「一路の平安を祈ります」と齊大佐。「皆さんお元気で」。白い扇子を高く上げて手を振る京子の白い姿が、やがて視界の外に消えた。

日本に帰って十年目、ようやく生活も安定してきた。お互いの連絡もとれるようになり、旧新屯小学校の教職員が伊豆の伊東で第一回新屯会を持った。京子の名前も話には出た

が、その動静は誰も知らなかった。

昭和四十二年頃の新屯会の時であった。T先生が冒頭に、興奮の面持ちで発表した。「白浜京子の消息がわかったよ」と。誰かが「おっ、生きていたか」と声を上げた。いや、と首を振って話し始めたT先生の報告によれば、京子の遺児二人が、長野県にある電器の製造工場に研修に来ていて、一年間の研修を修了して帰国の際、鹿児島京子の兄の家に立ち寄ったそうである。兄からの連絡でT先生は鹿児島にとんで行った。成長した姉は十八歳、弟は十六で姉の方は女学生時代の京子を彷彿させる面差しであったという。

齊大佐はあれから中共軍との戦いに敗れた後軍籍を離れたが、国民軍の将校であったことと、日本人の妻を持つていて、職もなく住居も転々として奥地への逃避行を続けたという。その頃夫妻には一女があり、次の子供を身ごもっていたが、旅の途中で出産して肥立ちが悪く、京子は一カ月後亡くなった。田舎の農家の納屋であったか、それとも小さな街の路地裏であったか。夫の身を思い、小さな二人の子供に心残しての哀しい最期であったろう。齊さんもその後幼い子と乳呑み児を抱いて、どんなにか苦労したこと

あろうか。後添えも娶らず二人の子供の成長を楽しみに、現在は上海で日本からの観光客専門に、通訳とガイドをやっているそうである。

姉と弟は大切に抱えてきた母の骨を白浜家の墓地に納めると、手を取り合せて泣いたという。二人は代わる代わる父から聞かされた母の話を、しっかりと聞いた日本語で話した。

「日本人の母を持ったことを、誇りに思っています」と再会を誓って、父の待つ上海に帰っていった。

京子夫妻の事実上の仲人役でもある激情家のT先生は、赤くなった目を何度もこすりながら、時には声を詰まらせて報告を終えた。

大輪の花開くこともなく、大陸の片隅で若い命を終わった京子のみたまに、一同は言葉もなく頭を下げて、みたま安かれと祈ったことであった。

(なかやまとしこ)



◎ I T革命の問題点・弱点

今回は I Tの必要性と I T革命の「光」の部分強調して述べてきた。しかし、I Tには「影」の部分(問題点・弱点・盲点)があることもしつかり認識しておく必要がある。以下、筆者なりに I T革命の問題点を七点ほど指摘しておく。

I T革命の「光」と「影」(下)

鈴木堯士

◎ 連関効果の希薄と雇用の悪化

第一は、I T経済は連関効果が極めて限られることである。具体的な例として、二百年前の「産業革命」で明らかのように、一方で人間の労働力が大規模に機械類に代替された。しかし他方では、蒸気機関車が走れば、機関車・車輛を製造する労働者、機関車を運転・操車する人、線路を敷いたり守ったりする工

夫・保線員、トンネルの掘削や橋梁・駅舎・踏切などを設置する労働者、素材を提供する鉄鋼業で働く人さらには鉄鉱石や石炭を採掘する鉱夫といった具合に、次々と新しい産業が連鎖的に起きた。このように「ものづくり」経済は、「連関効果」が顕著に現れたのである。これに対し、I T革命はそのような連関効果は期待できない。ネットビジネスで利用者側に要求されているのは、P C(パソコン)と電話線さえあればよいという非常に簡単なものである。労働環境から考えれば、他方面への波及効果はほとんど望めず、I T革命は産業革命と比較して頭の痛い問題を抱えている。

第二に、雇用バランスが極端に悪いことである。I T産業が創出する雇用の大半は、平均以上の教育と知的能力を備えた一部の労働者のためのものだということである。アメリカでは当分の間は I T関連企業での雇用は増大するが、将来的にはアメリカの全労働者の二〇%が事実上職を失うという予測がされている。

◎ 所得格差・輸出競争力・デフレの問題

第三は、所得格差の拡大の問題である。アメリカ人一人当たりの年間

平均国民所得は、世界の第九位まで落ち込み、より上位にはスイス・日本・デンマーク・スウェーデン・ドイツ・オーストリアなど、全労働人口に占める製造業従業員の割合がアメリカより高い国々が並んでいる。しかしその一方で、ビル・ゲイツ一人の資産がアメリカの全人口の下から二分の一の人々の資産の合計額を上回っていると言われている。

先進国でも発展途上国でも見逃すことのできないようなデジタル・デバイド(所得格差)を生み出しつつあることをしっかりと認識すべきである。I T革命は、申すまでもなく基本的には情報・サービス部門を機動力とし、徹底的な省力化が目的なので、雇用面ではむしろマイナスの方向に働かざるを得ないと考える。結局のところ、I T革命は大半の労働者の所得水準を鈍らせるのみならず、長期的な見方をすれば経済全体を衰退の方向へ導いていく危険性がある。

第四に、輸出競争力が非常に弱く、国家収支を悪化させる可能性があることである。具体的には、I T化による海外市場での売上は、言語の違いを始めとする文化的要因ならびに知的所有権の保護の不十分さ(例えば、違法コピーの氾濫・海賊版の横

行・特許の侵害など)により、自国内に大きな収益を還元できない側面があることは間違いないと思う。

第五に、デフレの側面が表面化してくることである。これからは巨大企業はネットを使って、世界中の部品メーカーから最も安い価格の部品を調達することができると考えられる。その結果、安値競争に拍車がかかり、部品が安くなれば完成製品の価格も当然安くなる。結果的に、eコマースの展開・拡大が国際的な値下げ圧力を加え、事実上の「一物一価」へと世界の物価を引き下げていくこと(ネット・デフレ)が懸念される。もちろんデフレ経済が必ずしも悪いわけではないが、この競争に負けた企業は淘汰され、勝った企業も低廉価格での販売を余儀なくされ、実収入益はあまり期待できないことが心配される。

◎ 人間疎外とネット犯罪

第六は、多くの人が指摘しているように「人間疎外」の問題である。「P C」(パソコン)や「iモード」を始めとして I T製品の物神化・呪物化傾向が顕著になりつつある。そういう物に夢中になればなるほど、人間の精神そのものが空洞化し、人間疎外が拡大していくことが心配さ

れる。この問題は人間の本質に関わる重要なことである。筆者が現在勤務しているポリテクカレッジ高知でも大幅な I T機器の導入により、学生教育に大きな問題が起こりつつある。例えば、C A D/C A M(コンピュータ利用設計・加工情報)と N C 旋盤(コンピュータ数値制御によるロボット加工旋盤)を用いれば、簡単に加工製品が完成する。学生は手と頭を使って紙上に設計図を描き、従来型旋盤で削って加工する苦しみ、楽しみをほとんど知らない。真の「ものづくり」の重要性を本質的に知らぬまま卒業していくのではなからうか。

I Tは知識(情報知)を人間に与えることはできても、知恵(実践知)を授けることはできない。「和魂洋才」という言葉があるが、現代社会は「無魂洋才」という I T世界へ人間を導いているのではないだろうか。小中高校へのコンピュータの導入は、基本的に間違っていると思う。高知県でも全国に先駆けて小中高全校にコンピュータを導入した。しかし、一定年齢以下の子ども達がコンピュータを使うことに筆者は危機感を持っている。幼少期の教育には実践知が最も必要で、コンピュータは知恵・感性・理性・霊性を子ども達

から奪い、脳の持つ機能を低下させる可能性が大きいのではないかと真剣に考えている。

第七は、プライバシーの侵害問題を含め、電脳犯罪が拡大する問題を指摘しておく。ネット犯罪で最も強力な爆弾は「電子マネー」ではないかと言われている。そのリスクは半端なものではないと思う。ネット上の悪質商品の販売、ネット詐欺、出会い系サイトを悪用した凶悪犯罪システムの破壊、コンピュータウイルスの発生、そしてハッカー・クラッカーなどによる意図的なコンピュータへの侵入など、幾つもの攪乱要因を I T革命は抱えている。

◎ I Tはあくまで手段・道具

最後に強調しておきたいのは、「ものづくり」がなければ I T産業も、ソフト産業も存在し得ないということである。つまり、I Tはあくまでも手段・道具に過ぎないことと、「ものづくり」あつての I Tであることを常に認識する必要がある。

結論的に、二十一世紀に生き残ることができるのは、I T・環境・健康・福祉介護を視野に入れた「ものづくり」産業であると確信している。(すずきたかし/ポリテクカレッジ高知校長・高知大学名誉教授)

元鬼軍曹の回想録

山本志雄

昭和五十八年五月、鹿児島県曾於郡末吉町のアパートで電話が鳴った。

「山本君ですか？ 藤田です」。聞き慣れた広島弁のアクセントだった。「おお、藤田か、福山へ帰ったと思うちょっと」。一瞬、間があり、「高知の藤田です」……。

福山へ帰った藤田は鹿児島大学医学部の悪友で、医師国家試験を合宿して一緒に受け、共に合格した仲間です。電話の相手はこれから就職する高知医科大学泌尿器科学教室の故藤田幸利初代教授でした。「申し訳ありません。友人と間違えました。はい山本です」。背中は冷や汗で、元高校球児の私は即、直立不動で立っておりました。「高知には何時帰ってきますか」。間、髪を容れず、「すぐ帰ります」。これが鬼軍曹こと

私の泌尿器科医の始まりです。

当時の高知医大の泌尿器科学教室の新人教育システムはオーベン（指導医Ⅱ小権力者）とウンテン（指導医Ⅰ肉体労働者）がミツテ（金魚のフン状態）で朝からオーベンが帰るまで一日中一緒に働き、学ぶというものです。

泌尿器科医として三年目に初めて、高校の後輩でもあるT先生のオーベンになった鬼軍曹は不必要に張り切っていました。朝七時出勤で八時までに入院患者の点滴と担当患者の回診（挨拶回り）、血液検査、昨日の画像診断の整理です。八時過ぎると週二回の教授回診、手術日は八時半

に患者と共に手術室、外来日は外来のカルテの準備で一日が始まります。

学生の中から優秀であったT先生は医学知識を整理する前に忙しさを訳が分からなくなり、三日でただ身体を動かすだけの肉体労働者と化していました。その上鬼軍曹は無類の酒好きで、何かにつけてT先生を夜の街に連れ出し、飲み屋で「昼はわしがオーベンで夜はおまえがオーベンじゃ」と言いながらT先生に説教し、一時過ぎまで飲み、翌日朝七時に出動してこないと怒っていました。服装もネクタイ、ワイシャツ、革靴が基本で清潔第一でした。朝まで飲んでシャワーを浴びて着替えて仕事が始まる前と鬼軍曹は考えていました。その年の十一月には、日本泌尿器科学会西日本総会が高知医大の主催

で開催されることとなり、鬼軍曹は

パネルディスカッションのパネリストに決まっていました。実験と学会準備で八月から忙しくなり、病棟業務はT先生にまかせたところ、彼は正気を取り戻し、学生時代の医学知識と臨床が再び始めました。しかし、鬼軍曹は昼は手術と外来、アルバイトで、夜、実験をしており、T先生は鬼軍曹の仕事が終わるまで帰れません。朝の四時に実験室に治療方針を聞きに来たこともありました。

彼を叱ったこと思い出があるのは医大の放射線科技師休憩室（階）のことで、「一度言われたことは二度と聞くな。お前みたいな奴は医者がかまるとか、患者さんが可哀想じゃ。窓から飛び下りて死んでしまえ」。

ただし四階の医局では飛び下りるとは言いません。

この頃から、鬼軍曹は小手術をまかされ始め、後輩に指導しました。

持針器、セツシのもち方、創部に対する針の角度、身体と腕、脇をあけないことなど細かく最初はやさしく教えて、二度目からは、まず、病因論から始まりました。読んできた手術書、手術術式の種類、その長所、短所や患者が大人か子供かで生体反応が異なり、たとえば包茎の手術でも典型的な環状切除術や背面切開術スリーブレセクション、埋没陰茎に対する術式など思い付くだけでも様々で、状況に応じて手術するために医学知識が必要です。

ある一年目の医者が精巣癌の高位除精術（癌化した精巣を切除する）を先輩たちに促され、手術室でやろうとした時に鬼軍曹が見に行き、「おんしゃあ、なにしゆうがな」。その指導医に「教授の許可はもらっちゃうがな？」。

精巣癌は術後に激しい抗癌化学療法があり、手術そのものも浸潤があるのかなのかで切除範囲をどうするかなどの問題もあります。精巣癌の担当医は精神的にも肉体的にも非常に厳しい毎日が待っている。それを一年目の手術をさせていただげる研修

医と甘い考えの指導医が…….と思つた鬼軍曹は烈火のごとく怒り、一方その研修医はなんで怒られるのかわからず、鬼軍曹と一週間、口を聞きませんでした。



故藤田教授は紳士で、宴席でも芸達者で、手術が上手で「手術日に酒が飲めないような手術はするな」「手術は自分が見て下手と思ったら、自分と同じ程度、自分と同じと思つたら自分より上手、自分より上手と思つたらかなり上手である」「手術は大胆かつ繊細に」「手術は左手でするもの」など様々な指導をいただきました。

その教授の尿道形成術は何十例も見せていただいて、手術書を読み、なおかつ実際に質問しても理解するのに数年かかりました。教授の手術センスは手術書を越えたところにありました。鬼軍曹が「先生は本気で手術をしますか」と聞いたところ、「大学では教育の意味もあるから、スタンダードな手術しかしない」、この教授の奥の深さに恐れられたことでした。これにはまた、

「教科書どおりの手術は手術ではない。技術と知識を高め、患者に応じた手術ができることが泌尿器外科医なのだ」と教えられました。手術は手の術で職人芸と思ひ、あらためて泌尿器科医になったことに喜びを感じました。



鬼軍曹も医局長の勤めを終え、関連病院作りのために市内の私立病院に赴任し、最初は同僚は一名で二年目から二名になり、また研修医が来

ることになりました。この研修医Y先生は大学では幸い、やさしい指導医に恵まれてはいたので、鬼軍曹の噂を聞いており、着任時の挨拶は「僕はすぐ開業しますので、怒って手術を指導していただかなくてもいいです」。ふうん……。鬼軍曹は「ふざけるな。手術もできん奴が開業して何になるか。患者さんが迷惑じゃ。医者をやめてしまえ」。



それから約二年間共に働きY先生は今は大学で医局長になり、手術に臨床に活躍中です。開業は私の方が先になりました。

医者となり十九年目で開業しました現在、自分の人間としての財産は何かと考えてみますと、開業祝いにいただいた時計に記してくれた「山本組」の各組員の名前だけでもありません。この中には高知医科大学泌尿器科学教室で初めて留学し、研究論文で賞を取り、帰国して「山本先生、僕は本当に米国で頑張ってきた」と報告してくれた奴もおりまかなった研修医です。

（やまもとゆきお／山本志雄泌尿器科院長）

万葉文芸学 (四)

浜田清次

一〇

さて、以下この歌の文芸性の究明に入りますが、そこには三つほど大きな問題があると考えます。

第一の問題は、主題です。テーマです。作者の雄略天皇が、何を歌おうとしているか、という問題です。主題を捉えることは、小説や戯曲に限らず、和歌の研究においても、極めて大切なことです。主題は、人間でいうならば頭脳です。生命を支配する頭脳であります。

この歌は、みなさんすでによくおわかりのように、天皇が処女(おとめ)に対して愛を求めているのですね。「家はどこか、名は何というか」と問うているのですから、処女に一目惚れして愛を求めているのです。この歌は恋愛の歌なのです。

ちなみに、万葉集の部立てでは、この歌は雑歌の部に入っていますけれども、これは便宜上、巻一全体がそうなっているからのごとして、それに惑わされてはいけません。われわれは、そうした規制に惑わされることなく、作品そのものの究明からその本質を捉えるべきです。この歌が相聞、つまり恋愛の歌であることは明白であります。

恋愛の文学といえは、われわれはすぐその代表作として、源氏物語を連想するでしょう。そこには恋愛の種種相、その喜びや悲しみや悩みや苦しみが、委曲を尽くして描かれています。立派なものです。ただ、あえて申しますならば、源氏物語の恋愛は、総じて暗く湿っぽい恋愛です。それは貴族の時代が盛りを過ぎて爛熟(らんじく)、下り坂になっていく

る時代の産物だからです。

それに比べて、この万葉の歌の何と明るく健康なことでしょう。そこには早春の陽が輝いています。暖かいそよ風が吹いています。若草の匂い、土の匂いまで感ぜられるではありませんか。しかも、肝心の天皇の求愛のセリフたるや、いかにも古代の英雄らしい、何とも堂堂たる口調です。自信にうち満ちています。わたくしはこの歌が万葉集の開巻第一、原点に置かれている事実、感動を覚えざるにはられません。

一一

主題の次に考えるべき第二の問題は、構成です。一首の組み立てです。人間でいえば骨格であります。歌は四段から成っています。

第一段は「籠もよ み籠持ち 掘

ろで、わたくしはそこに、ひどく興味深いものを覚えます。

ですから、最後の連はどうしても「我(わ)にこそは 告(つ)らめ 家(い)をも名(な)をも」と訓まなければなりません。通説のように「我(わ)こそは 告(つ)らめ 家(い)をも名(な)をも」と訓んだのでは、この歌の文芸的妙味は半減してしまいます。

一二

構成の次に考えるべき第三の問題は、修辞です。言葉美しく巧みに使って効果的に表現する技術です。人間でいえば容色の美であります。

この歌は、万葉集でも最も古い歌の一つですから、五音七音の整齊には程遠いものがありますけれども、それでいて不思議に諧調(かちょう)を奏(かな)でています。

「籠もよ」と深い感動をもって歌い起し、「み籠持ち」と綺麗に褒め進め、「掘申もよ」と感動をくりかえしながら「み掘申持ち」と展開させ、しかもそれを対句として並べている点など、何と玄妙な調べでしょう。

対句といえは、四例もの多さですが、その使い方が光っています。

- ① 籠もよ み籠持ち
掘申もよ み掘申持ち
 - ② 家聞かな
名告らさね
 - ③ おしなべて 吾こそ居れ
敷きなべて 吾こそをれ
 - ④ 家をも
名をも
- ①は二句の対句、②は一句の対句、③はまた二句の対句、④はまた一句の対句、というふうに変化させているのです。
- とにかくこの歌の調べのよさ、音楽性は、それこそ舌頭に千転して味わうべきであります。

一三

以上、わたくしの唱導する万葉文芸学について、その実態を開巻第一、雄略天皇の歌を通して具体的に申し述べました。本当はもう二、三例、短歌や旋頭歌(せんとく)を挙げ、「長歌+反歌」

一四

様式や連作様式にもふれたたいのですが、それでは長期の連載にわたりすぎますので、思い切つてすべて割愛します。

要するに、わたくしの主張は、万葉研究の第一義はその文芸性の究明でなければならぬ、ということです。わたくしはその主張のもとに『万葉集を読む』上下二巻を出版した次第です。

幸いなことに、わたくしの主張は、識者の深い理解と高い評価を得、清水克彦氏のような著名な万葉学者は、こうまで言つて下さいました。

——私は先生のご年輩の学者で、これほど深く作品の文芸性を解明することに留意された方を知りません。私も文芸研究の中心は、その文芸性を明らかにするにあると考え、先生より約十年遅れてその道を志したものでございますが、私のころにも、国文学の主流は訓詁(くご)注釈などで、文芸性の究明ではありませんでした。先生のお仕事は、国文学の歴史の上で忘れることのできない先駆的業績だと思えます。

正にこれ知音知己の言、わたくしは感佩(かんぱい)いうところを知らません。

申もよ み掘申持ち この間に 菜摘ます兒」、第二段は「家聞かな名告らさね」、第三段は「そらみつやまとの国は おしなべて 吾こそ居れ 敷きなべて 吾こそをれ」、第四段は「我にこそは 告らめ 家をも名をも」です。

段によって長短の差はありますがけれども、内容の上から見ると、このように四段から成っていることは確かです。このことは、わたくしをして漢詩絶句の作法の「起承転結」を思わさずにはおきません。

むろん、雄略天皇がその作法を知つていて、それに従つて作つたなんということがあるはずはありません。この作法が確立したのは、ずつと後のことですから。しかし、この歌の構成が、見事に「起承転結」から成っていることは疑いのないところ

結びの言葉を記します。

わたくしは、土佐に生まれて土佐に老い、やがて土佐に骨を埋めようとする草莽(そうぼう)の国文学者ですが、それだけに愛郷(あいきやう)のころには人一倍深いものがあります。空が青く、山が青く、海が青く、先人また慕わしいのです。

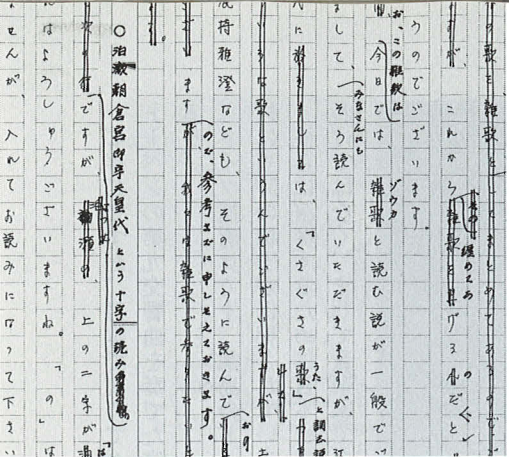
そのわたくしにとつて、慨(げ)てならない一つの重大事があります。それは高知県民の気風が、いちじるしく先哲景仰(せんていけいやう)の情操に欠け、古典の美に参じようとしないうことです。

土佐には中世以来、輝かしい南学の伝統があり、谷秦山や鹿持雅澄のような巨星を輩出して来ました。それは県民こそつての何よりの誇りでなければなりません。今の若い人達の中で、果たしてどれだけの人が、その名と業績とを知っているでしょうか。

高知県の教育刷新が叫ばれてからもう数年になりますが、わたくしは寡聞にして、要路の士の「南学に還れ」とも「秦山・雅澄の精神を継承せよ」とも言われるのを聞いたことがありません。先哲に学んで古典の美に参ずることは、二十一世紀教育の必須の課題ではないでしょうか。

(二〇〇一、八、五)

(はまだきよつぐ／国文学者)



原稿『万葉集を読む』の原作 労作

ご存じですか、日本で初めてベートーベンの第九交響曲を奏でた演奏者。

ドイツ捕虜兵です。徳島のドイツ村に当時の様子が保存されています。彼らは演奏するために日本に来たわけではなく、まして音楽家であつ

空間に寄せる想い



北村 真実

たわけでもありません。なのになぜ第九が演奏されたのでしょうか。彼等の生活の中に音楽が生きていたからでしょうね、きっと。

日本では、小学校から最低九年間は音楽を学校で学びますけれど、悲しいかな、楽器で親しんでいる人少

ないですよ。いつも凄く思うんですが、数学の数II Bとかの難問を解く労力のきれっぱしで、楽譜の読み書きや、笛やギターやピアノなんてある程度は簡単にできてしまうと思うんです。それにこっちの方がよほど楽しくて、社会性・発展性があつていいなって思うのですけど。

どこの民族にも素晴らしい音楽があります。心の底から楽しんでます。机の上を叩いてみれば、ホラいろんな音がする、それを自分の好きなように並べて、好きな速さ、ノリでやってしまうの。テクニクが凄いいからいい音楽ができるわけではない。その人がいかに生きてるのか、それが音に出たりする。人間イコール音楽、生活イコール音楽、のよう

ところで、演奏会に行くってちょっと大変。まず日時が限られる。そして静かにしていなければならぬ。料金も結構高い。で、かまえてたままにホールへ行ったりするから思ったより演奏がよくなないと損した気分になったりする。

けっして私は今の演奏会のあり方を否定しているのではなく、もっと誰もが気軽に歩いて楽しめる場が実在すればいいな、と思うのです。そこには討論の場もあり、誰もが参加



“音の広場「カプリース」” によるこそ

できる。批評できる聴衆が増えて彼等の耳が肥えればいい演奏家が育つ。で、ますますいい聴衆が育つ。

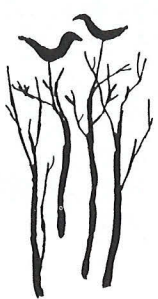
あるレストランでは、毎日欠かさず生の音楽を入れていきます。演奏ももてなしの一つという考えで、お客様の反応は様々。いきなりヴァイオリンやフルートの音色が響き渡ると、びっくりする人、拍手をしてよいかどうか戸惑う人、聴かずに大声でおしゃべりしている人……。別に音楽を聴くために来ているのではなく、この不意の音楽との出合いに喜ばれる方は意外と多く、中にはチップを払う人もいます。私はそこでピアノをたまに弾かせてもらうのですが、小学生の姉妹が演奏を聴いてくれた後で、私もピアノを習うと言ってくる

「両性の本質的平等」をふまえて男女が協力して社会参画する時代だという。生徒、学生である間は確かにそうだ。少なくとも建前上は。しかし社会に出た途端、その幻想は破られる。ましてや結婚したらなおさらだ。

今日はそんな世間にあえて棹さす嫁とその夫の話をしよう。

彼女は四十六歳。子供は進学して家を離れ、夫と二人暮らしである。車で十分ほどのところに夫の両親が住んでいる。足の不自由な舅と痴呆症の姑、二人あわせて一人前のような生活だ。老夫婦は介護保険をめぐってばい利用して生活している。配食サービスも使っている。嫁である彼女は老夫婦の介護をしない。月に二回ほど様子を見に行き、月に一回二人の病院通いに夫とともに付き添うだけだ。

当然のことだがヘルパーさん達からの評判は悪い。夫の姉妹も県外から注文をつけてくる。それでも彼女は舅姑の生活に手を出さない。



「義父達を嫌いになりたくないんです」と彼女は言う。「手伝った方が気分的には楽だと思います。でも一度始めたら止められないでしょう? 何年続くかわからないでしょう? だんだん疲れてイライラして義父達にやさしくできなくなります。それくらいなら今までどおりの関係を長く続けていきたいです」。

隣に座っている夫は小さく頷いた。「僕は週二、三回はのぞきに行きます。もつと手伝うべきだという気はするけど、僕は介護は社会サービスに任せるという選択をした。彼女の気持ちはよくわかる。どちらを選んでも苦しいのだろうね」。

介護保険は在宅ケアを支えようと声高に謳う。政府のいう在宅ケアとは家族による、多くの場合、妻や嫁や娘のタダ働きによる介護のことだ。安上がりな介護をまくろむわが国の福祉政策は、家族愛、無償の行為の美しさを喧伝して精神主義で嫁に娘にボランティアにと介護を押しつける。裏を返せば老人には専門家による介護は不必要というものであり、老人は侮られたものだと思おう。

老人はもつと怒っている。ずっとがんばってきた、そして今もがんばっている自分達を専門家に手伝ってほしいと政府や行政に要求すべ

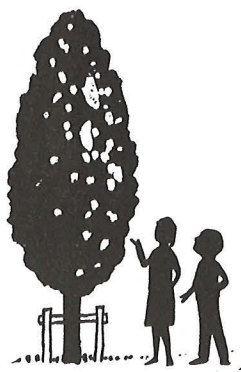
れた時は大変嬉しかった……。身近に音楽を感じさせてくれる所、ハッピーな音楽との出合いを提供してくれる所、そして演奏者同士が刺激を与え合う所……。聴衆、演奏者、そしてジャンルを越えて、映画人、文筆家、画家達がお互いに活性化されるような場、考えただけでわくわくしませんか?

……以上は一九八八年に季刊誌「はうす」に投稿した拙文です。実は私、この七月から「音の広場」カプリース」というちょっとしたサロンスペースをオープンしてみました。昔、なんとなく夢見ていたことを、いろいろと具体的に実践していこうと思ってます。クラシック、ジャズ、民族音楽などジャンルにこだわらない定期ライブを軸に、どんな展開になるのか……楽しみます。興味のある方、ぜひご一報下さい。え? パトロンになりたい? 大歓迎です!!

音の広場「カプリース」
高知市比島町4-1-32
TEL&FAX
088-824-0936
e-mail: kapp2500@baill.on.ne.jp

(きたむらまなみ)

きではないか。要求の矛先を女性に向けたのでは政府の陰謀にまんまと引っかけたってしまうではないか。



舅姑を看取り、夫の世話をして自分の動ける時間を使い果たした老いた女性がいます。介護離婚の決意を固める熟年女性がいます。将来の介護地獄を恐れて結婚に二の足を踏む若い女性がいます。彼女達の嘆きや怒りや逡巡を、どうして笑ったり責めたりすることができようか。

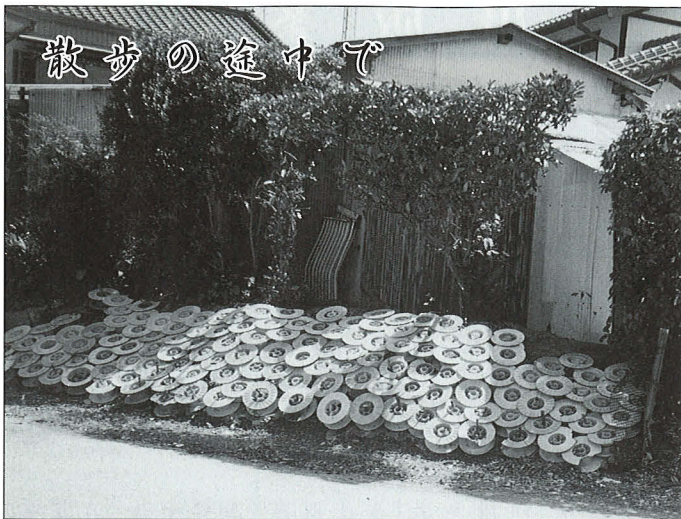
車で十分の距離。七年越しの見守り。今夏、姑は老人ホームに入る。久しぶりに某の花診療所に現れた彼女と夫は自分達の選択を自らに言い聞かせるかのように、かみしめるように話して帰っていった。

（さなだじゅんこ／某の花診療所）
（医師）

おんな三題

その二

真田 順子



紅水川の土手の北側の住宅地を歩いていると、夏草の茂る空き地や小さな畑に行き当たる。そしてこんな風景にも。カラーでお見せできなくて残念だが、黄色と白の二種類の円盤が生け垣の根元にびっしりと敷き詰められていた。円盤に見えたのは溶接コードの空きリール。土が流れ出すのを防ぐため埋めてみた。この家のご夫婦が畑仕事の手を止めて教えてくれた。黄・白二色の模様、と思ったものは製作者(?)の意図ではないとのこと。

風伯

心から心へ

アルバム『文明』のIからIIIまでは従来のフォークとは一味違うこの時の作品が主体となっている。そしてその年河島は四国八十八ヶ所の遍路旅とライブ活動を三回に分けて行い、その途中、中村から高知に向かう車の中でこの『文明』シリーズの最後を飾る長大な曲「心から心へ」の構想が生

二一年前の秋、丁度今時分だろうが、国道五六号線を高知市に向かっている二八才のシンガーソングライターがいた。彼、河島英五はそれまでの数年間アマガニスタンやペイルート、さらにトルコ、ネパール等を単身訪れ、そこから何曲かの優れた唄が生まれた。

また。それを証するのが『文明II』のジャケットでそこには、昭和五五年十月、高知にて書き下ろし作品」と記されている。何しろLPレコードの片面全部を費やした曲だからライブで歌うのも無理だし、ましてTVやラジオで聞くことは皆無だった。だが、二八才の青年の感性が痛々しいまで率直に噴出したこの曲が紛れもなく土佐で生まれたこと、この土地の風土が彼の心に火を点したことを我々土佐人は誇っていいことだと思ふ。四月一六日、河島が四八才の生を終えたと報じられたその夜、取って置きのパランティン一七年の封を切り飲みながらこの二分を越えるバラードをくり返し聞き、時にその一部を小さく歌った。《くだけ散る波よ、お前は何思う、くり返しくり返し、ただくだけ散る波よ》。英五、ありがと。

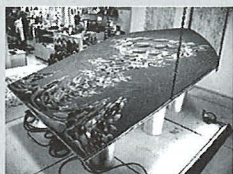
(南北)

第26回市民フロア企画展

新世紀の風Ⅳ

—石井葉子・横田章展

高知大学特美卒業後、県内外で個展・グループ展等を重ねる若手作家の2人展。近作を含め立体作品約10点を展示します。



2001/9/13(木)~9/25(火)
10:00AM~6:00PM 会期中無休
はりまや橋デンテッターミナルビル5階

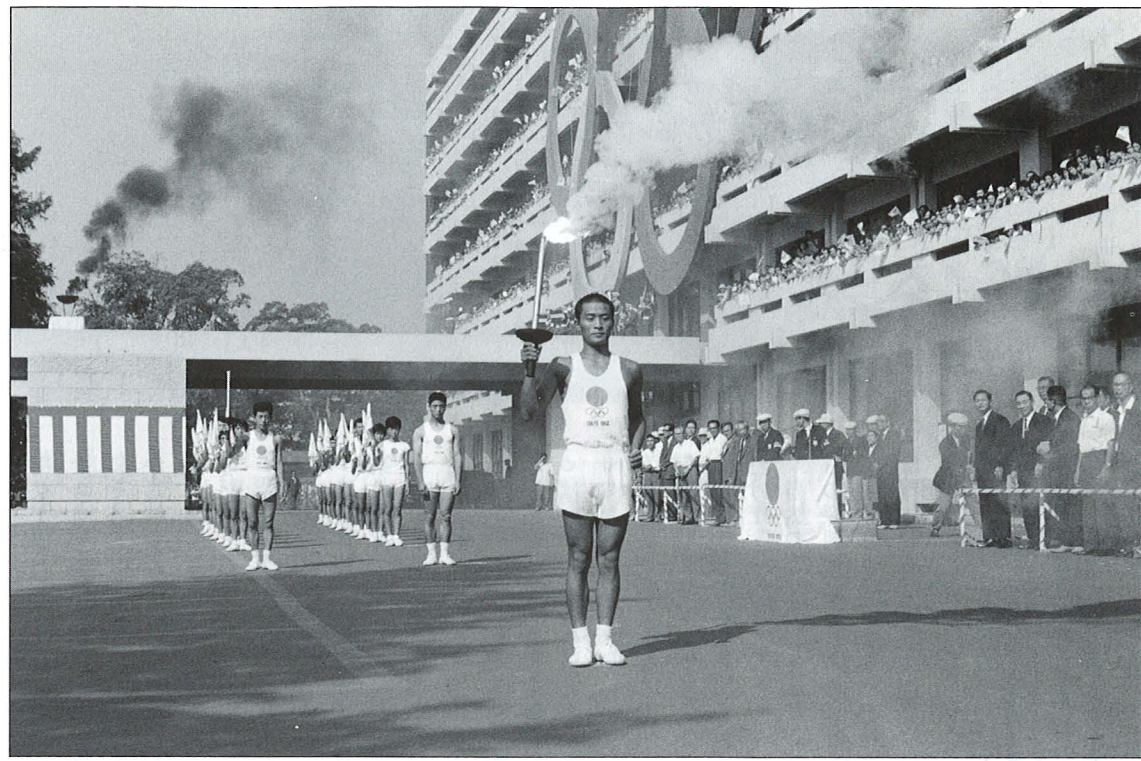


今号の表紙

「きのこのスケッチより」戸梶郁子

私は山歩きが好きで、山によく登ります。林下で見かけるきのこに思わず足を止め、しばらく見入っています。五千種はあるだろう中の五百余種に出会いました。自然の分解屋は、菌糸をのばしわずか数時間(数日)で子実体を形成し胞子を散布して、跡形もなく消えてしまいます。

退職後、きのこの姿、形、色の愛らしさに惹かれて、スケッチを始めました。(とかじいくこ)



高知を撮る 聖火リレー (昭和39年 高知市)

第17回写真コンテスト入賞作品

横山正富

東京オリンピックの聖火リレーの出発式が高知県庁で行われた。写真は、大勢の市民に見送られる一番目のランナー。

高知新聞(13・7・9付)によると、「接触せずに相手を動かすなど、現代科学ではよく分かっている人間の潜在的な能力を解明しよう」という研究が、二〇〇〇年度から文部科学省所管の科学技術振興事業団の予算で始まっている」といふ。

年間約一億円の予算を認められ、期間三年で研究を進めている研究機関の一つ、放射線医学総合研究所が取り組んでいるのは、〈外気功〉の実験。

〈気功〉には〈内気功〉と〈外気功〉がある。前者は、自分の体内に気を集中して、臓器の活力を高める健康法。後者は、自分の体内の気を外へ発散して、接触せずに他人を動かしたり、病人を治療したりする。

これは気功の熟達者のみならず、得る技で、この能力を有する者を〈気功師〉と呼び、外へ発射された気を〈外気〉という。

気功

風俗歳時記



報じられている〈外気功〉の実験は、気功師と受信者を別々の部屋に隔離して、気を送ると、同時に受信者が反応を示す確率が高く、しかも受信者の脳波に変化がみられる、というもので、例えていえば、テレビ局が電波で画像を送ると、その電波をアンテナで受信し、テレビに画像が映るのに似ている。

もし、目に見えない電波の知識がなければ、これは実に不可思議な魔法と思われるだろう。

しかし、種々のハイテク機器を用いて〈内気〉の実体研究が進められ、これまでに、静電気、磁気、化学的微粒、遠赤外線、微量放射線などが検出されている。

これらの検出因子は、気功師によって異なり、どの気功師にも共通の因子はまだ見つかっていない。(湯浅泰雄著『気とは何か 人体が発するエネルギー』、他)

(朴)

外崎光広 著

土佐自由民権運動史

著者の四十年に及ぶ研究を集大成。新資料による知見も盛り込みながら、土佐自由民権運動の全容を通史として明らかにした。
A5判・上製本 四二四頁 本体価格一、七一九円

外崎光広 編

土佐自由民権資料集

土佐自由民権に関する基本的資料百十余点を事件別に分類・収録。原資料によつて各々の事件の実態が把握できるようにした。
A5判・三四四頁 本体価格三、〇〇〇円

土居重俊・浜田教義 編

高知県方言辞典

古語から現代語にいたる土佐言葉一万四、七〇〇余の意味、用例、使用地分布を明示。注釈も加えた土佐方言唯一最大の辞書。
A5判・上製本 七三六頁 本体価格八、〇〇〇円

依光裕 編著

珍聞土佐物語(上巻)

土佐の山や海辺の村の閑寂裏端で古老が語つた地元の伝説や小咄の数々。ここでは地域別に二十名の語り部の百二十話を収録。
四六判・三九二頁 本体価格一、五五三元

依光裕 編著

珍聞土佐物語(下巻)

県下各地の様々な語り部三十一名から寄せられた百二十話を採録。親から子へ、孫へ語り継ぎたい「ふるさと」がここにある。
四六判・四〇八頁 本体価格一、五五三元

岡林清水 著

高知県文学散歩

高知県の文学を地域に即して紹介。その舞台歴史、作家の足跡等を訪ねて歩く。旅のなかの文学史。ともいえる文学案内。
四六判・二七八頁 本体価格一、七四八円

山本大 著

幕末の青春

激動の幕末期を駆け抜けた坂本龍馬の一生を、史実に基づき分かりやすく描いた。子供から大人まで親しめる屈指の龍馬伝。
四六判・一六八頁 本体価格一、一六五円

藤本稔子 著

思いつきさきりみとめて 子育て

保育者としての長い経験からみたくもたのいきいきとした姿。その豊かに育つていく過程を描きながら子育てを考える。
四六判・三五二頁 本体価格一、五五三元

坂本正夫 著

土佐の習俗 婚姻と子育て

民俗学の宝庫といわれる土佐の村々を歩き、土地の古老たちから伝承を採集。三十五年にわたる調査研究の中から婚姻と子育てに関する伝承・習俗を体系的にまとめた書。
四六判・二〇〇頁 本体価格一、四〇〇円

高知市文化振興事業団 編

高知のエスプリ

ふるさとの未来を^{あす}考える
県内のオビニオン・リーダー五十人が、各々高知へのあつい思いを語る。「文化高知」巻頭文からカットとともに収録した。
A5判・一六〇頁 本体価格一、一六五円

高知の文化を考える会 編

高知の文化を考える

文化について多方面から検討。豊かで個性豊かな市民主体の高知の文化をどうつくり発展させていくかを、市民的立場で考える。
A5判・一八八頁 本体価格一、二六五円

清水孝之 著

中山高陽

土佐の生んだ江戸文人画の祖中山高陽の業績を明らかにした労作。資料として未発表のものを含む書簡集・年譜等を収録した。
A5判・上製本 三三六頁 本体価格三、八〇〇円

筒井広道 著

画帳の歳月

高知画壇の重鎮の、美と画業についての随想集。展覧の知られざる内情、肩のこらな絵画論等、興味尽きない美術への誘い。
A5変形判・上製本 二五六頁 本体価格一、九四二円

山岡浩 著

高知の農業

地域農業・農産・農に生きる人々をつぶさに訪ね高知県農業の実像を明らかにするとともに、特徴的な産地づくり事例を紹介。
A5判・二四八頁 本体価格一、八〇〇円

土居重俊 監修
高知市文化振興事業団 編

土佐弁 土佐日記

紀貫之の名著「土佐日記」を、現代とさることばでつづる。古典を身近なものにするとともに、土佐弁にも親しめる楽しい本。
B6判・上製本・一三〇頁 本体価格九七二円

高知県緑の環境会議 森林研究会 編

高知の森林

高知の代表的な山と森林をつぶさに探訪し、残されている貴重な自然や植生、森林と人々とのかわりの歴史(現地への道のり等)を紹介。
B5変形・二三八頁 本体価格二、四二七円